

## 第8回常呂川減災対策協議会 議事概要

日 時：令和4年7月5日（火）14：00～15：50

開催方法：WEBによる開催（Webex）

出席者：北見市長、訓子府町長、置戸町長（代理）、北見地区消防組合消防長（代理）、北海道警察北見方面本部警備課長（代理）、北見警察署長（代理）、陸上自衛隊第6普通科連隊長（代理）、網走地方気象台長、オホーツク総合振興局長（代理）、網走開発建設部長

※網走川ほか減災対策協議会、常呂川減災対策協議会、湧別川ほか減災対策協議会、渚滑川ほか減災対策協議会の4協議会合同開催。

### 《議事内容》

- (1) 規約改正
- (2) 幹事会報告
- (3) 取組状況のフォローアップ
- (4) 意見交換
- (5) 情報提供
- (6) 今後のスケジュール

### 《議事概要》

(1)～(3)、(6)について、意見等なく了承された。

(5)について、質問等なし。

(4)について、各機関からの意見は下記のとおり

#### ◆北見市

- ・近年、毎年のように全国各地で自然災害が発生し、甚大な被害を及ぼしているが、北見においても、6月18日及び19日に低気圧を含む気圧の谷の影響により局所的に強い雨やひょうに見舞われ、基幹産業である農業などに大きな被害が発生した。また、昨日も短時間に強い雨が降り、一部道路が冠水し、通行止めや停電が発生した。こうした中、市民の皆様には平時より自らの命は自らが守るといった防災への意識を持っていただく必要がある。
- ・昨年の水防法改正では、洪水浸水想定区域に係る対象河川について、これまでの洪水予報河川、水位周知河川に加えて、中小河川が追加されたことから、本市では水防計画の修正のほか、北見市洪水ハザードマップの更新作業を進めており、令和5年度に更新後のハザードマップを全戸に配布する予定である。災害時に市民の皆様が防災情報を正しく理解し、適切な行動を取るよう丁寧に伝えていきたい。
- ・本市では、本年8月に3年ぶりとなる北見市防災総合訓練の開催を予定しており、開発局や北海道をは

じめ、様々な防災関係機関の参画の下、実りある訓練にしたいと考えている。

- ・現時点で本市が課題として捉えている主なものとして、市民の防災意識の醸成はもとより、避難行動要支援者に係る個別避難計画の策定があり、このことについては、福祉部局と防災部局との連携が重要になる。各要配慮者利用施設において、避難確保計画の重要性を理解していただくためのより効果的な周知方法や、自治体相互の支援や受援等の連携協力とその体制づくりを進めたいと考えている。
- ・発災初動時においては、衛生的なトイレの確保や、機動的な避難支援施設の確保が必要になるが、広域での対応が課題と考えているので、国及び北海道におかれましては、移動が可能なトイレトレーラーやトレーラーハウスについて、これまでの支援に加え、オホーツク圏域での配備について、ご検討いただきたいと考えている。
- ・出水期を迎えたが、行政は防災対策の充実に不断の努力はもとより、地球温暖化に伴う気象状況の激甚化や突発的に発生する自然災害への対応について、感染症対策など様々な制約の中で取り組まなければならない。引き続き、本減災対策協議会を通じ、皆様とのさらなる連携、協力をお願い申し上げたい。

#### ◆訓子府町

- ・この8年間、減災対策協議会によって町民の防災意識が非常に高まってきたということは事実である。
- ・1つの成果として地域における防災備品の整備が着実に進められている。防災倉庫の確保、土のうの確保等々含めて地域ごとに、迅速に対応できる状況をつくるとともに、各地域の自主防災組織を確実に増やしてきている。今年もまた1つ増え、28自治会のうち約10自治会が自主防災組織をつくって日常的な訓練を実施しようとしている。小学校等においても1日防災学校を実施しながら、いざというときに力を発揮できる状況を地域で構築しているのが8年間の歩みと言って過言ではないと思う。
- ・かつての洪水マップは、1000年に1度の雨や暴風雨災害等に対応できるようなものではなかった。消防庁舎が10月に完成するが、既存の庁舎なら1000年に1度、100年に1度の洪水で水没する状況に対応した消防庁舎になろうとしている。地域が50cm水没する状況に対応できるような洪水マップを作ろうではないかと、昨年この会議でお話ししたと思うが、それが出来上がった。職員、我々が相当難儀して作り上げたもので、緊急連絡先や夜間や高齢者等の避難方法についても町民が理解しやすいように記載している。
- ・避難場所は従来の学校や会館だけでなく、大雨になったら高台に避難すること促すように地域毎の避難先を矢印で示したのが画期的な点である。河川事務所や様々な人たちのアドバイスもいただきながら、現実的な洪水マップを作成して、町民に配布したばかりである。このような資料を使って町民の防災意識を高める研修の実施が必要と考えている。
- ・6月18日と19日に本町でどのような災害が起きたかであるが、河川事務所が設置した雨量計では50分で40mmから50mmの局地的な雨が降り、道路の決壊や破損が40か所、河川の氾濫が17か所発生し、昨日の大雨でも被害箇所はさらに増えている。常呂川本川ではなく支川の小河川からの氾濫による被害が多いのが地域の課題となっており、小河川の治水や道路、農業関係の整備をどのように計画的に実施していくかが極めて重要である。
- ・10年前、20年前の小河川や農業、あるいは道路側溝等の整備はもう通用しない。我々も意識を変えていかなければならないし、今の雨の降り方に対応した整備に対応していかなければならない。
- ・今回の災害では、管内各機関のトップが一堂に会し、迅速に対応いただいた。今までは川は川、農地は農地、道路は道路でやっていた縦割りの行政を乗り越えて、どうするかという議論を皆で一堂に会して行った。今回管内では唯一、本町が大規模な災害、920haのタマネギが降ひょう被害に遭った。小河川

が氾濫し、橋も決壊している状況の中で常呂川の水量は上がっていく。そのような中、より現実的に災害に対応していくための減災の意識、変わらなければならない公共施設整備等、官公庁の縦割りを越えて実施しなければならないということが今回実証されたと感じている。

#### ◆置戸町

- ・常呂川最上流部の町として、8回目を迎える減災対策協議会は、各関係機関との情報共有をはじめ、最新の状況を知る機会としてとても参考になり、特に近年はいつどこで発生してもおかしくない自然災害に対し、物心共に日頃からの構えが重要だと改めて認識する場としてとても有意義に感じている。
- ・昨日のゲリラ豪雨や降ひょうもそうだが、局地的に短時間でまとまった雨が増えているように感じている。本町でも市街地では小雨だが、少し離れた地区では集中豪雨による冠水被害が発生しているなど、同じ町内でも大きく状況が異なることから、いち早い情報の収集や共有を図る体制づくりの必要性を強く感じている。
- ・本町の減災に対する取組ですが備品の整備については、コロナ感染拡大対策を意識し、随時充実を図っている。今年度は、昨年導入した自動ラップ式トイレ用のテント25張りを購入したほか、避難所となる公共施設の非常用電源装置の設置を計画的に進めていて、今年度は1施設、残り2施設についても随時配置を図っていきたいと考えている。
- ・自主防災組織は現在4つの地域で立ち上がり、それぞれが防災意識を継続する取組を行っており、全地域での組織化に向けて引き続き啓蒙を図っていきたいと考えている。
- ・防災教室は小学校、中学校、高校生を対象にそれぞれ防災学習を開催している。特に置戸高校では美幌自衛隊の協力の下、福祉の担い手として要介護者を想定した避難訓練を開催し、いざというときに落ち着いて行動ができるよう取り組んでいる。また、災害発生時に初動対応を行う役場職員を対象に、防災体制の学習や防災備品の操作方法などについて研修会も開催している。
- ・昨年度作成し町内全戸へ配布した防災ガイドファイルは、令和3年5月に避難指示基準が改正されたことに伴って、今年度は当該改定箇所の差し替えを進めている。
- ・近年明らかに気候が変化し、温暖化とともに大雨、集中豪雨が当たり前の時代となっている。常呂川水系に位置する各関係機関との連携強化を今以上に図って、町民の生命、財産を守るためにこれからも備えていきたいと考えている。

#### ◆北見地区消防組合

- ・本組合では、令和3年の取組として、常呂川下流地区水害タイムライン検討会に参加し、刻々と変化する情報から行動確認をするとともに、関係機関との情報共有を図り、遅延問題の洗い出しを行っている。本年度は実働を含めたタイムライン訓練を今月実施する予定となっている。
- ・水難訓練では、令和2年にドローンの協定を締結した事業者と合同訓練を実施し、上空からの映像を基に迅速な状況確認が可能となり、現場指揮の判断材料として多大な効果があることを確認できている。今後も様々な想定で合同訓練を企画し、迅速、確実な現場対応に努めていく。
- ・水防活動ではマンパワーが必要となることから、消防団員の入団促進が最重要課題と捉え、地道な広報活動を継続するとともに、若年層世代への周知の方法としてSNSを活用するなど、積極的に取り組んでいきたいと考えている。

#### ◆北海道警察北見方面本部

- ・北海道警察北見方面本部及びオホーツク管内の7つの警察署については、今年も引き続き各種装備資機材等の訓練を通じてスキルアップを図っていく。今年も網走地方気象台の協力を得てセミナーを実施できる状況になっている。さらに、夏には北見市の主催する総合防災訓練にも参加するので、セミナーや合同訓練などを通じて知識やスキルを高めるとともに、広報紙や各種講話などを通じて、住民への防災意識を啓発していく形を今後も継続していきたい。

#### ◆陸上自衛隊第6普通科連隊

- ・水害の発生に備えて、陸上自衛隊第6普通科連隊では、救難ボート等による人命救助の準備をしている。今回の会議で皆様の取組等をよく認識することができたので、今後の訓練等に生かすとともに、引き続き関係機関等と綿密に連携できればと考えている。

#### ◆網走地方気象台

- ・北海道はこれから9月にかけて気温が高く、降水量は平年並みと予想している。予想どおり高温になると、令和になってから4年連続となる。気温が高いと空気中に含むことができる水蒸気量が多くなるので、昨日や今日のように上空に寒気が入った場合、局地的に積乱雲が発生・発達し、短時間に激しい雨を降らせるので、最新の気象情報を利用していきたい。
- ・気象台の取組として、平常時は避難指示等の判断伝達マニュアル更新に関わる支援、防災訓練や1日防災学校への協力、気象防災ワークショップなどを行い、異常時はホットラインによる即時的な解説、助言を、各自治体や関係機関に寄り添い柔軟に取り組んでいる。先ほど津別町や滝上町から、異常時対応の研修や危機管理対応の職員の対応の質を高める必要があるという話があったが、気象庁では気象防災ワークショップと称して、危機管理対応等の職員を対象に、大雨になった場合にどのように体制を構築し、どの地区に避難指示を発令するのかを2時間ぐらいのカリキュラムでの研修会を全国的に実施している。今月19日には、北見市で気象防災ワークショップを2年続けて開催することになった。今年は、合併前の旧常呂町、旧端野町、旧留辺蘂町の支所の担当者にもお集まりいただき、疑似体験を行う研修会の準備を進めている。  
管内各市町村での職員研修実施の際は、気象台にお声を掛けていただきたいし、気象台からも全市町村を対象に取り組みやすい企画を練って呼び掛ける予定である。

#### ◆オホーツク総合振興局

- ・皆様方におかれては、災害に備えるための日常的な連絡体制の整備をはじめ、各種訓練など、地域防災力向上のため、様々な形でご協力いただいていることに、この場を借りて厚く御礼申し上げます。
- ・振興局では、水害リスク情報の周知や自助防災意識の啓発に関わる取組として、児童生徒が防災に関する知識を身につけ、防災意識を高めるため、授業に防災の要素を取り入れた1日防災学校の取組が行われている。より実践的な防災教育としていくためにも、引き続き防災関係機関の積極的な関与が必要となるので、教育機関などから相談があった際にはご協力をお願いしたい。
- ・水防活動体制の強化に関わる取組として、昨年の水防法の一部改正に伴い、市町村が発令する避難情報を変更するなど、北海道水防計画の修正を行い、その旨を各市町村に対して周知したほか、市町村の地域防災計画や水防計画の改正に対して助言などを行っているところである。
- ・ハード整備として網走川や無加川などにおいて治水対策事業による掘削などを実施しているほか、河

道の適切な維持管理のため、駒生川、訓子府川等にて河道掘削、車止内川などにて伐木、無加川にて堤防天端の舗装、女満別川にて堤防整備などを実施している。

- ・令和4年度以降は防災訓練等に対する道の支援として、ノウハウが豊富な自衛隊OBの職員が防災訓練や研修会の企画立案から運営までをサポートする取組を行っている。これまでも管内市町村において、この制度を活用した訓練を実施している。
- ・地域防災力向上のための取組として、北海道では自主防災組織をはじめとした地域における防災活動のリーダーを育成することを目的として、平成19年度より北海道地域防災マスターの認定研修会を開催している。昨年は新型コロナウイルスの影響で開催できなかったが、今年度は管内で実施を希望する地域で、秋以降研修会を行う予定で考えている。
- ・補助事業メニューの紹介として、ハザードマップやまるまちハザードマップの作成、水防資材の購入などに係る費用を補助する事業がある。ハード整備については引き続き網走川、無加川などの河川改修を進めるほか、湧別川を流れる芭露川において、本年度より新たに上流部を計画区間に追加するなど、治水安全度向上に向けた取組を進めていきたいと思っている。
- ・北海道では、河道内樹木の伐採や堆積土砂の除去について、河道内樹木伐採などの河川維持管理のあり方を平成29年度3月に作成しており、河道内の維持管理に取り組んでいる。令和2年度からは緊急浚渫債事業を活用し、当初平成29年から令和8年までの10か年計画を、2年前倒しして令和6年完成に向けて取り組んでいる。

以 上